

月刊 京都

MONTHLY MAGAZINE
KYOTO
since 1950

2017
No.789
APRIL

4



桜名所を歩こう

◆ 桜舞い散る道を歩きたい

◆ 山科疏水・岡崎疏水・哲学の道ほか

◆ かくれ桜名所はニッこ!

◆ 京都府庁・有栖館・原谷苑・常照皇寺ほか

◆ 夜桜ライトアップの魅力

◆ 高台寺・東寺・清水寺・平安神宮ほか

◆ 春のをどり

◆ 都をどり・京おどり・鴨川をどり・北野をどり

◆ 桜グッズがかわいい!

◆ 桜小物 桜スイーツ

◆ 桜の電車を楽しもう

◆ 嵐電・叡電・嵯峨野トロッキ列車編ほか

◆ 水辺の桜の道を歩く

◆ 賀茂川・鴨川コースほか

◆ 梅小路公園で過ごす休日

◆ 京都鉄道博物館ほか

◆ 春、さくらが香る料理をいいただく

◆ 妙心寺退蔵院ほか

◆ 春の京都満喫ガイド

二〇一七

春のライトアップ情報

京の桜まつり

春の寺宝展・特別公開



今月の京旬感 ハイライト

若きアーティストを支える 新たな芸術文化の発信拠点



美術学校の校舎をリノベーションして生まれ変わった「THE SITE」。

A カフェ

珈琲焙煎所 旅の音



産地から優れた品質の生豆を厳選して焙煎したコーヒー豆を販売。カフェ利用もできます。
AM10:00～PM7:00
☎月曜日
<http://coffee.tabinone.net/>

B 古道具

までりあほるま



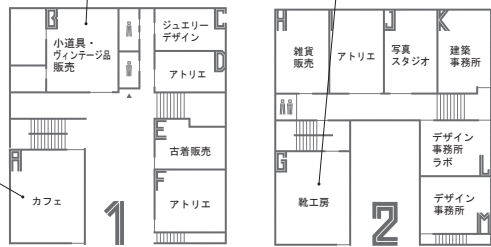
骨董や古道具、絵画、古書、機械製品からヴィンテージアパレルまで、いろいろ販売。
PM12:00～PM7:00
☎月・火・水曜日
<https://www.materiaforma.com/>

G 靴

靴工房 かたつむり



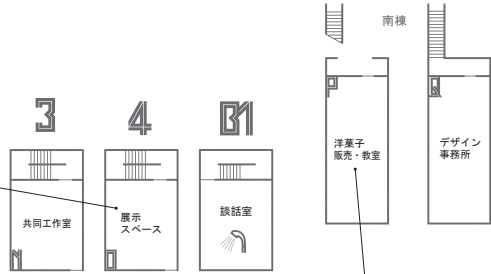
「歩きやすい靴」を第一に考えた注文靴を制作。靴づくりの教室も開催。
AM10:00～PM5:00（土曜日のみ～PM8:00）
☎月・火・水・日曜日（日曜日は不定休、HPにスケジュール掲載）
<http://www.katatsumuri-shoes.com/>



4F 展示スペース



入居者だけでなく一般の方でも利用できます。
一日¥5,000～。
申し込みは、フラットエージェンシー本社へ。



P 洋菓子

Kathy's Kitchen



焼き菓子を中心にアメリカンベーキングのレッスンを行っています。
営業日・定休日ともにHPで確認を。
<https://kathyskitchen.jimdo.com/>

■左京区田中東春菜町30-3
問い合わせ フラットエージェンシー本店
担当:小島秀利
☎075-411-0669
<http://the-site-kyoto.com/>

閉校した美術学校の校舎を改修し、若手アーティストらの活動の場にしたシェアアトリエ「THE SITE」。

昨年十月にオープンし、今年二月、全十五区画が本格的に稼働を開始しました。若手作家らのアトリエ以外に、カフェや雑貨店などが入居、アトリエに携わる人たちの活動拠点として注目されています。

建物を所有する京都精華大学が不動産会社フラットエージェンシー（京都市北区）に、未利用の建物の活用を依頼。芸術大学を卒業した若いアーティストが活動の場を確保するのが難しいことから、若手起業家への支援に取り組み同社の吉田創一代表取締役がアトリエスペースにリノベーションすることを提案。「美大生に卒業後の活躍の場を提供したい。若い方にごでいろいろなお話を吸収し、育ってほしい」との思いから、賃料を抑え、活動の第一歩を踏み出しやすくサポートしています。

三棟ある建物は、四階建てで地階もある西側と二階建ての東側の二棟に分かれた北棟と、二階建ての南棟からなります。各部屋とも、以前の美術学校の雰囲気を残し、教室の黒板や床のペ

ンキ跡など当時のものを生かした内装が印象的。同物件を扱うフラットエージェンシー本店の小島秀利店長は、「美術学校が歩んできた歴史をリスペクトしつつ、新たな価値を創造していきかった」と説明しています。

アトリエやデザイン事務所以外にも、一般の人たちが利用できるカフェ、古道具や骨とう品などを扱う雑貨店は一階に入っているの、立ち寄りやすい。いずれも若いオーナーによる創意工夫に富んだ店づくりと商品揃えが特徴。カフェのオーナーの北辺佑智さんはTHE SITEについて、「古い建物に新しい意味を加えた点に魅力を感じた」と語っています。

三階に入居者のみ利用できる共用の工作室、地階に談話室が設けられ、入居者同士が交流しやすくなっています。今後、各アトリエやショップが一緒にあったイベントなども期待されます。テナント事業部の浜田幸夫さんも、「昔の美術学校だった建物が時代とともに変化、再生して、文化や学び、展示を通じて地域に開かれる場所になってほしい」と願っています。

芸術文化の発信拠点、THE SITE。これからは楽しみです。

